

2011. 11. 8

## 第26回「女性史青山なを賞」記念講演会

**戦争と女性映画監督**

—坂根田鶴子の「開拓の花嫁」を読み解く—

第26回（2011年度）「女性史青山なを賞」受賞作：

池川玲子氏著『「帝国」の映画監督 坂根田鶴子—「開拓の花嫁」・一九四三年・満映』  
(吉川弘文館, 2011年3月刊)

## 受賞者による記念講演会

日 時：2011年 **12**月 **1**日 (木) 13:20~14:40

会 場：東京女子大学 23201教室 (23号館 2階)

講 師：池川 玲子 氏 (本賞受賞者/実践女子大学他非常勤講師)

## ◆講師のプロフィール

いけがわ れいこ  
池川玲子氏：1959年生まれ。1982年東京女子大学文理学部史学科卒業。2006年川村学園女子大学大学院人文科学研究科博士後期課程修了。博士(文学)。現在、実践女子大学・大妻女子大学非常勤講師。主要論文に、「戦時下日本映画の中の女性像—『チョコレートと兵隊』再検討」、『歴史評論』(2009年4月号)などがある。『「帝国」の映画監督 坂根田鶴子』吉川弘文館(2011年)の業績により、第26回「女性史青山なを賞」を受賞された。

受賞作は、日本最初的女性映画監督、坂根田鶴子(さかね・たづこ；1904-75)の主要監督作品『開拓の花嫁』(1943年)の丹念な分析を通して、アジア・太平洋戦争における一人の女性文化人の生涯を描き出した労作。その満州への移民プロパガンダ映画は、幸福で生活感にあふれたユートピア的なイメージを盛り込みつつ、「カップリング」「多産」「男性移民慰撫」「純血保持」といった「開拓花嫁政策」を浮き上がらせるものだった。しかし著者は、ふとした夫婦間の会話などを掬い上げ、そこに女性の目線からの坂根の「センス」を読み取ろうとした。「愛情においても労働においても、男女の行為をバランスよく配置する坂根の姿勢」を通して、「ジェンダー規範を越境した女性像と男性像が躍動している」と著者は見る。一本の映画が映し出す、「戦争」「満州」「女性」の関係を立体的に解き明かす、多くの示唆に満ちた一冊である。

●申し込み不要です。直接会場までお越しください(聴講無料)。

東京女子大学  
女性学研究所